

松阪訪問記

東京都稲城市 戸塚由美子

平成23年11月23日、三重県松阪市において、市民公開シンポジウム「古典園芸のふるさと松阪撫子・花菖蒲・菊とその仲間〜」（松阪三珍花保存会主催）が開催されました。かねてより、伊勢系花菖蒲のしとやかな美が好きであり、また、前号の会報に「岡村金蔵著『伊勢花菖蒲に就いて』（実際園芸）」の原稿をおこし、伊勢花菖蒲を勉強させていただく機会があったことから、このシンポジウムに大変興味がありました。

名古屋で清水理事長と合流、近鉄にて松阪へ向かいました。松阪では、当協会会員、松阪三珍花保存会会員でもいらっしゃる森禎二さん中田邦雄さんが出迎え下さいました。

私たちは、森さんのご案内で花菖蒲を熱心に作っていらっしゃる、石津町の中尾利男さん、鎌田町の鈴木逸郎さんにお会いしました。中尾さんは、あの青木家のご親族で、ご自身でも交配実生されてるとのこと。鈴木さんは、広い圃場で多品種栽培され、ちょっとした花菖蒲園でした。花時でないのが残念。いつかは、花を拝見しに訪れたいものです。

そして、岡村金蔵氏のご子息岡村伸治ご夫妻がお住まいの岡村家をご訪問いたしました。ご夫妻にお会いし、金蔵氏が永眠されているお墓にお参りさせていただきました。花菖蒲を、花を愛する大先輩に、お会いできたような感動をおぼえました。



その後、松阪の偉人、本居宣長記念館、三珍花保存会の松阪菊展示会を拝見いたしました。実物の松阪菊は初めてで、

花色の豊富さ、花の芸の細やかさに感嘆いたしました。

そして、午後、目的のシンポジウム。会場一

杯の参加者。当協会顧問の藪谷先生をはじめ、三重大の神山先生、加茂花菖蒲園の一江さん、テレビでお馴染の小笠原亮軒さんらの講師の先生のご講演は、楽しく、時に難しくもありましたが、大変勉強になりました。

この日、お忙しい中、貴重なお時間をいただきました松阪の皆様、特に森さん中田さんのお二人様、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

古典園芸のふるさと松阪、花を愛するお国柄を感じた一日でした。

新会員の自己紹介の投稿

最近入会した方に投稿をお願いしました。今後ともよろしくお願ひします。

青梅市みどりと水のふれあい事業推進協議会 東京都青梅市

日本花菖蒲協会に入会させていただきました、青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会でございます。この度は、日本花菖蒲協会会報誌「花菖蒲」に寄稿いただける機会を設けていただき、誠にありがとうございます。さて、私ども青梅市みどりと水のふれあい事業推進協会は、みどりと水に関する公共公益事業を行うことを目的に青梅市が設立した団体でございます。

みどりや水に関する自主事業（コミュニティー花壇事業、多摩川等の河川清掃事業、炭焼き体験事業等）の他に、青梅市からの受託事業といたしまして、青梅市吹上しょうぶ公園の年間監理業務を受託し、花しょうぶ栽培管理相談員や現場で作業に従事して下さっている公益社団法人青梅市シルバー人材センター会員の方々と協力し、様々な研究や試行錯誤を繰り返しながら、年間を通じたハナショウブの栽培管理および植栽管理等を行っております。毎年6月には、青梅市「吹上花しょうぶまつり」を開催し、市内外から多くの方にご来園いただき、初夏の谷戸に咲き誇る色とりどりのハナショウブに大変ご好評をいただいております。

末筆になりますが、今後とも日本花菖蒲協会会

員の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしく
お願い申し上げます。(事務局)

上田 哲男

石川県金沢市

金沢市は、昭和 58 年(1983)加賀藩祖前田利家の金沢入城から 400 年を記念して「金沢四百年」記念事業を行いました。その事業の中に、「花菖蒲園」の造成がありました。候補地は、市街地に隣接する卯辰山中腹ある「紅葉谷」という谷で当時、造園技師であった私が加茂花菖蒲園・修善寺・明治神宮などを視察し、園の設計から工事、植え付けその後の管理業務を担当することとなりました。

梅雨空のもと加茂元照様に現地指導を頂き植え付けしたのを鮮明に覚えています。そして、丹精込めて育てた花菖蒲の花が初めて咲いた時、花の瑞々しさに感動し、立派に咲かせることが出来た喜びは今でも忘れません。また、昭和 50 年代の後半に公共の花菖蒲園担当で懇話会が開催され、私も参加させて頂いたことがあります。しかし、日常業務に追われ参加する事も出来なくなってしまいました。振り返りますと、その取り組みの意義は大きかったと思います。

以来 30 年予が経過し私は、卯辰山花菖蒲園の花が来年も再来年も咲き続けて欲しいと思いながら観ています。花菖蒲園の存続には、行政の取り組みも大切ですが花に対する市民の協力や理解等の周辺環境も大きいと思います。また花菖蒲全体では、栽培技術や品種管理から花菖蒲文化の醸成など課題は多岐にわたります。

日本花菖蒲協会は、これらの課題に真摯に取り組まれ日本の花菖蒲文化の発展に貢献されています。どうか私もそのお仲間に入れて頂き、皆様方から様々なご指導を頂きながら地域での花菖蒲文化の発展に少しでもお役にたてばと思っています。今後共、宜しくお願い致します。

古田 政明 鳥取県西伯郡南部町

～花菖蒲に出会って～

私は、30 歳ごろからエビネ蘭、日本春蘭、寒蘭、富貴蘭、雪割草、日本桜草などをつくってきまし

たが、平成 22 年 3 月会社を退職してから何か新しく植物づくりをしようと思っていました。平成 22 年 6 月中旬に先輩の前田敏光様に電話しました。偶然、今回琴浦花菖蒲展示会を知り訪問しました。山脇信正先生より江戸時代から伝承されている「宇宙(おおぞら)」の説明を受けました。内容は、宇宙は江戸時代(1845 年以前)に松平菖翁によって作出された歴史的名花であること(古典園芸植物)。我が国が世界に誇れる伝統園芸植物であること。そのお話を聞いて平成 24 年 1 月に入会しました。花菖蒲を介して友達作り!!山脇先生をはじめ会員の皆様のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

景山 拓一

鳥取県境港市

今から、十数年前の 6 月であったと思います、妻が鳥取花回廊に花菖蒲を見に行こうと私を誘いました。それまでも大山町の大神山神社等へ時期になると幾度か花菖蒲を見に行ったことがあったので気軽に行くごとになりました。花回廊の一室に数十鉢の見事に咲き誇る花菖蒲が展示されていました。今でも鮮明にその時の感動を思い出します。特に、菖蒲園(地植え)での観賞がほとんどで、鉢植えで展示された花菖蒲を見るのはこの時が初めてであったと思います。

帰りに入場口近くのテントで花菖蒲の販売を行っているというので、立ち寄ってみることにしました。そこで初めて山脇先生に出会ったのです。熱心に勧められ、数種類の苗を購入したのが私の花菖蒲栽培の第一歩となりました。後日、琴浦町のご自宅を訪問し、先生の花菖蒲に賭ける情熱と見事に管理されたお庭の素晴らしさに圧倒されました。

それから、毎年 6 月になると花回廊へ通い、琴浦町のご自宅を訪問させていただき、そのたびに花菖蒲の種類が増え、現在では 100 種近くに増加しています。

当初から、栽培方法についてご指導を受け、これが失敗することなく今までやってこれた大きな要因だろうと思います。また、毎年、日本花菖蒲協会が発行する協会誌をいただき、協会には加入し

ていなかたものの、協会の動向等について早くから接することができました。

ところで、鉢数が大小併せて数百鉢を超えるようになると、単なる栽培技術では限界を感じるようになってきました。一つは場所が手狭になってきたこと、株分けや植え替えができない鉢ができること、一部病気が発生したり、オルトランでは対応できない害虫の発生等々の生育障害が起こって来ました。また、最も不安に思うことは、単に独善的な栽培管理になっていないかと思われることです。

幾度となく協会誌を読み返し、大勢の方々が大変な努力を続けておられることを知り、その成果を大切に参考にさせていただいています。

また、一昨年から地域の花菖蒲同好会に参加させていただくようになり、身近にたくさん仲間が増えました。さらに今年から金子理事さんも松江市にお住まいを構えられ、島根、鳥取両県にまたがる同好会に参加いただくことになりました。

そして、山脇副会長、金子理事を顧問にいただき、吉灘氏を会長とする組織が結成され、今後の山陰地方における花菖蒲普及のための拠点が形成されました。

日本の伝統花であり、人を引きつけてやまない不思議な魅力を有する花菖蒲を、これからも体力の続く限り皆様と共に守り育てて行きたいと思えます。

岩元 進 宮崎県児湯郡川南町

～花菖蒲への思いや栽培歴～

昨年、インターネットで入会案内を目にしたことから入会させて頂きました。これを機に御指導、お付き合い、よろしく願いいたします。地理的な面、その他から、様々な催しに参加することは難しそうですが、機会があればいつか参加をと思っています。

花菖蒲を初めて庭に植えたのは、多分高校生の頃だったと思いますが、栽培方法もわからず、植え替えもしなかつたので、いつの間にか消えてしまいました。その後、ジャーマンアイリスの写真を見て気に入り、品種の収集・栽培を始めたもの

の、軟腐病が多発するようになったため、花菖蒲に切り替えたというのが正直なところでした。昭和60年頃だったでしょうか、当時は100品種以上、500鉢ほど栽培していました。今も引き続き2～30品種は畑に植えているので、栽培暦は25年少々というところでした。

花菖蒲には様々な品種があり、美しい上に丈夫なので気に入っていますが、その他のアヤメ類の花も好きで、現在はとりわけアヤメに興味を持っています。私は6年ほど前まで鹿児島県に住んでいましたが、設楽鵬氏から氏の作出された品種や交配種子を頂いたことがあり、5年ほど前から、それを基に自分なりの新品種作りを楽しんでいます。本会に入会の折に頂いた会員名簿の中に設楽氏の御名前を拝見し、御縁があったと喜んでいる次第です。

～近所の花菖蒲園など～

◆宮崎市の「市民の森公園」花菖蒲園

我が家から車で1時間ほどのところにあり、花の時期にはテレビ・新聞等で紹介されています。約160種7万株あり、毎年5月下旬から6月上旬にかけて「はなしょうぶまつり」が開催されます。

◆都城市の早水神社（アヤメ）

約2万8千株のアヤメが植えられ、4・5月の連休中は賑わうようです。品種はカマヤマショウブのみのようなようです。我が家からは1時間半ほどかかります。

◆川南湿原

我が家から4kmほどの川南湿原にノハナショウブの自生があります。ノハナショウブの自生南限として国の天然記念物に指定されている鹿児島県始良郡湧水町栗野の三日月池より、株数ははるかに少ないのですが、三日月池のものより花型が整っているし、色変わりの巾も大きいようです。園芸品種の影響があるのかもしれませんが。湿原は長年の整備が終わり、今年から公開されています。20数年前ですが、三日月池にノハナショウブを見に行ったことがあります。予想外に狭く浅い池で、周囲には畑が広がり、人家もすぐ近くです。株数はかなりあったものの、昔はもっと株数が多く、水量もあったということでした。